

講義名	リテーリングケーススタディ				授業形態	
担当教員	新 雅史	開講期・曜日・時限		後期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
本講義は、小売業の事例研究（＝ケーススタディ）を通じて、商業学に関する考え方を学び、その知識を応用して、実際の小売経営に役立つ力の習得をめざします。まず、小売経営に関する基本的な概念を説明したうえで、とりわけ小売業の集積体としての商店街に着目して、商店街はどのような歴史をもつか、また商店街がどのように運営されていて、その空間の具体的な課題（や可能性）が何かについて、それぞれ検討をおこないます。						
到達目標						
(1)背景と環境の異なる複数の小売業の事例の比較検討から、小売業の主要な戦略手法について学修できる。 (2)競争力をもつ小売業がいかなる専門的人材を有しているかを理解することで、小売業で働くうえでのスキルと能力を習得できる。 (3)地域社会のなかで小売業が果たす役割をケースに即して学ぶことで、小売業に従事する者として身につけるべき社会的責任と倫理観を習得できる。						
提出課題						
期末レポート（もしくは期末試験）						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
履修人数にもよりますが、講義レポートについては、なるべく学生どうして相互レビューをおこない、その後教員からフィードバックをおこないます。						
評価の基準						
毎回の講義の参加度 50％ 最終レポート（もしくは最終試験） 50％						
履修にあたっての注意・助言他						
神戸の商店街に関する事情について事前に調べておくこと。例えば、神戸市立中央図書館に行って商店街に関する書籍や資料をあらかじめ調べておくとういでしょう。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						

その他		
講義連絡を通じて資料を配布します。参考文献は各回において適宜指示します。		
授業計画		
1. ガイダンス 2. 神戸・沖繩の商店街はどう歴史的に形成されたか 3. 神戸・沖繩の商店街にはどのような小売業態が集積しているか 4. 神戸・沖繩の代表的商店街の現状 5. 神戸・沖繩の代表的商店街の課題はなにか 6. 神戸・沖繩の代表的商店街はどのように管理／運営されているか 7. 国や自治体は商店街をどう支援してきたか 8. 阪神淡路大震災は神戸の商店街をどう変化させたか① 9. 阪神淡路大震災は神戸の商店街をどう変化させたか② 10. 学生によるフィールドワーク報告① 11. 学生によるフィールドワーク報告② 12. 商店街の現状をどう調査するか：地域商業分析について① 13. 商店街の現状をどう調査するか：地域商業分析について② 14. 商店街と居場所：福祉事業者から見た商店街の「場」の可能性 15. 小売業起点のまちづくりについて		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
☐ ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
* 各回のテーマに沿った資料の収集および講義資料の確認：各2時間×14回=28時間 * 各回の講義内容の復習：各2時間×15回=30時間 * 期末レポート（試験）の準備：2時間 合計 60時間		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
①流通業界をとりまく経営環境の変化を主体的に読み取ることができ、かつ、その変化にあわせてマーケティング活動やブランド戦略を柔軟に立案することができる。 ②社会システムの変遷にあわせて先進的小売企業がどのように流通機能を担ってきたかを理解するとともに、今後の流通の姿に対する心構えと対応力を涵養することができる。 ③小売業の社会的役割およびそこで就業することの意義を理解することができ、その理解を通じて、小売業でリーダーシップをもって働くことができる熟意と倫理観を涵養する。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
レポートの講評などにおいてレスポンスなどの機能を用います。		
実務経験の有無及び活用		
「実務経験あり」。商店街やまちづくりに関わる内容を中心に、近年の実践例を紹介する。		
備考		